

# 無人駅と聴覚障害者

NPO法人ちゅうぶ 松倉由夏(まつくら ゆうな)

聴覚障害者 失聴して15年ほど

両耳に補聴器装用

大正大学卒業後、NPO法人ちゅうぶに就職。在職4年目。

障害者活動センター青おに所属

自主製品製作補助、外出支援、当事者活動に従事。

交通機関の利用

個人での外出、電車に乗っての外出支援(車いすを押す、スロープの依頼をする。)

## 【聴覚障害者にとっての無人駅での困りごと】

○無人時間帯のインターフォンの使い方に関する情報提供がWEBや駅掲示等で周知されていない電鉄会社もあり、使いこなせない。耳マークの表示と「筆談での対応をします。」と書いてあるにも関わらず、筆談での対応は無く、音声のみのやりとりしかできず困ったことがあった。

○インターホンの構造について駅員に質問してもはっきり分からない故に、答えてもらえないことがある。駅員が分からなければ誰に聞けばよいのかと思う。非常事態にインターフォンを使う際、ほとんどの電鉄会社では音声のみのやりとりであり、自分は非常事態が起きれば取り残されるのではないかという不安がある。

○車いす利用者の介護でスロープを出すのをお願いする際にインターフォンを使う。音声でのやりとりは「付き添いの人に聞いてもらえばいい。」と言われたことがあるが、車いす利用者は知的障害を重複していることも多く、代わりに聞いてもらい情報を判断材料として使いこなすのは難しい。

# 【解決に際して望まれること】

## （ハード面）

○モニター画面で筆談ができるインターフォンの設置をお願いしたい。（阪急電鉄の駅には設置されている。）画面によって、駅員の表情確認もできると良い。

○路線ごとの無人駅情報（無人の時間帯）と、無人時間帯に駅を利用する場合のインターフォンの使い方についても詳細を分かりやすくWEB・駅掲示板に表示をお願いしたい。

## （ソフト面）

○耳マークの表示をするならば、聴覚障害について基礎知識の研修をして欲しい。表示があっても、駅員が聴覚障害について理解していなければ、的確な対応をできない。表示をするならば、的確な対応をするという責任を持って表示シールを使って欲しい。